

「21世紀COEプログラム将来構想等調書、拠点形成計画調書及び研究教育活動調書」作成・記入における主な変更・留意点

「平成15年度21世紀COEプログラム将来構想等調書、拠点形成計画調書及び研究活動教育調書」作成・記入における、平成14年度版からの主な変更・留意点は以下のとおり。

《拠点形成計画調書（様式2）》

（項目2「拠点のプログラム名称」）＜ 申請内容の明確化＞

20字以内で表すことが困難と思われる場合、別に副題を添えることとする。

当該名称が拠点形成計画の内容と整合性がとれていない場合は、採否に影響することを明示。

（項目4「事業推進担当者」）＜ リーダーを含む組織構成員の責任の明確化＞

事業推進担当者は、拠点リーダーと共同して拠点形成計画の遂行に中心的な役割を果たすとともに、その遂行に責任を持つ研究者を指す。拠点形成計画調書に名目的に名前を連ねるなど、実質的な責任を負わない者は、事業推進担当者とすることはできないことを明示。

（項目6「拠点形成の目的、必要性・重要性」）＜ 記載内容の明確化、重複記載防止＞

拠点形成の目的、必要性・重要性について、記載項目を追加（2項目 6項目）。

（項目7-1「研究拠点形成実施計画」）

記入した内容の実施状況は、中間評価及び事後評価の対象となることを明示。

（項目8「教育実施計画」）

将来的に見た研究人材等の創出の見込みをも視野に入れて、具体的に記入することを明示。

（「使用施設」欄）

削除

（「現有設備（既設の主要機器）」欄）

削除

《研究教育活動調書（様式3）》

〔2〕「研究教育活動に係るデータ（共通）」

印を付した項目の調査対象を明確化する。

中核となる専攻等は、1専攻 複数専攻可とする。

〔3〕「研究者が本申請拠点形成に割り当てる（専従する）時間・労力の割合（貢献度合）及びその役割」

エフォート（研究教育活動において年間の全仕事時間・労力を100%とした場合、拠点形成に割り当てる時間・労力の割合）の意味を明確化する。